

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年3月10日提出

所属	職名	氏名
文学部英文学科	助教	藤井 光
研究題目	現代アメリカ文学における「分身」と時間の問題	
研究成果の概要	<p>本研究は、現代アメリカ文学において、「分身」というモチーフが、時間や歴史に関する新たな視点を含んでいることを追求するものであり、2009年度において雑誌論文と学会発表を行った。</p> <p>まず、William T. Vollmann が1996年に発表した <i>The Atlas</i> において、現在の自己を批判的に捉える視点から分身というモチーフが用いられていることを論じた論文、“THE American Traveler’s Love And Solitude”をドイツの学術雑誌 <i>Amerikastudien/American Studies</i> に投稿、53巻4号に出版された。「現在」という時点における主体のあり方へのVollmannの問いが、アメリカの成立過程である西への移動を反復する物語において発せられていると同時に、分身が現在の自己の耐え難さを増幅させる役割を果たしていることを論じたものである。</p> <p>同様に、分身という主題を用いて「現在」という時間性を問う試みが、現代アメリカ文学のなかでもロサンゼルスを舞台とした小説に頻出することに注目した。ロサンゼルス特有の時間感覚と都市文学の伝統を検証しつつ、「分身」という主題の意義を論じる内容を、日本アメリカ文学会第48回全国大会にて研究発表した。英語論文としてまとめ、<i>Journal of Contemporary Literature</i> の特集論文に応募、採用が決定している（2010年度出版見込み）。</p> <p>また、分身という主題を絡めながら、「現在」における男性的ジェンダーを批判的に問い、その変容の可能性を追求する小説として、Denis Johnson による <i>Already Dead: A California Gothic</i> を論じた英語論文を、学内雑誌である <i>Doshisha Literature</i> に投稿、採用された（2009年度内に出版見込み）。</p> <p>本研究を遂行するなかで、物語が時間性を「実践」するものであるという思考、およびそれが伴う、歴史への問いが、現代アメリカ文学を貫く大きな軸となることが明らかとなった。したがって、今後は研究テーマを「物語行為による歴史への問い」に移行させ、Richard Powers や Daniel Alarcon、Annie Proulx といった現代作家たちの小説を検討することになる。</p> <p>加えて、Denis Johnson が2007年に発表し、全米図書賞を受賞した小説『煙の樹』を翻訳した（2010年2月に白水社より刊行）。</p>	